

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4272300197
法人名	社会福祉法人 ふるさと
事業所名	第2グループホームふるさと
訪問調査日	平成 19 年 12 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 19 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4272300197		
法人名	社会福祉法人 ふるさと		
事業所名	第2グループホームふるさと		
所在地 (電話番号)	長崎県西海市西海町木場郷1445番地 (電話) 0959-32-2266		
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年12月19日	評価確定日	平成20年3月19日

## 【情報提供票より】(平成19年10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤 15 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <del>単独</del>	<del>新築</del> / 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	- 円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要(平成19年 10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.1 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	金森医院 たいら医院 大串歯科 真珠園療養所
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲を森に囲まれ、澄み切った空気と自然一杯の環境に位置し、敷地に歩行訓練できる中庭や花壇、菜園も整備しており、建物は木造で、天井が高く、自然光がたっぷり降り注ぐ優しく温かみのある雰囲気を感じられる。

ホームでは、地域に根ざした多くの取り組みを行っており、利用者が地域の商店街に配る包装袋を新聞紙で作っている姿があり、穏やかな笑顔が印象的である。利用者の平均年齢が高いにもかかわらず、地域の行事への参加やホームでの行楽などの行事が多く活動的である。

職員は、定年以外に退職者がなく、20年、30年の経験を持つベテラン職員が中心となり、業務の中で職員同士が学び合い、外部の研修にも積極的に参加し研鑽を積むことができる環境の中で、利用者のよりよい支援に取り組んでおり、利用者への温かく、優しい気配りの姿が見受けられる。利用者は、職員の支援のもと、ホーム内での役割に留まらず、地域の一員として暮らしており、事業所としても、地域との連携が円滑で役割も大きいと、今後のさらなる発展を期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、特に改善課題がなかったということであるが、職員は現状に甘んじることなく、ケアの充実や向上を目指して努力している姿勢が窺える。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価への取り組みでは、職員全員が全項目について一人ひとり自己評価を行い、それを管理者が集約し自己評価としており、その集約結果も職員に周知している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は、家族、地域住民代表、市社協、地域包括支援センター、市職員、ホーム職員で構成され、19年7月、10月の2回開催している。会議では、外部評価、事業所の運営、活動などの報告を行っている。出席者から様々な意見が出されているが、取り組みはじめてばかりの会議なので、内容や参加者など、今後状況に合わせて検討しながらさらに充実したものとすることを期待したい。また、地域密着型サービスになり、市職員との交流の機会が増え、意思疎通がよくなってきている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見・苦情等の受付に関しては、内部・外部の対応を重要事項説明書に明記し説明もしている。内部では玄関に意見箱を置いたり、相談窓口を設けたりしており、また、日常の家族の面会の際などにも要望を把握するよう努め、職員全員で共有し対応にあたっている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の振興会に所属し、道の駅や地元の町づくりグループが催す祭りに参加したり、バザーの収益金を寄付したりと、地域づくりの支援を行っている。また、利用者が新聞紙を利用した包装袋を作って商店街に配り喜ばれている。さらには、幼稚園児の訪問や中学生の職場体験、ボランティアを受け入れ、利用者の喜びも大きいものとなっている。防災に関しても近隣の民家に緊急連絡先として協力してもらっているほか、消防、警察、自治会等との連携、協力も得ている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和と思いやりをもって、共助共援」という法人理念のもと、地域住民、利用者、職員のすべての人々が互いに助け合うことを基本としている事業所であり、運営者自ら地域の中で事業所の活用を呼びかけ、法人全体として地域に根ざした取り組みを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者自ら職員の採用時や研修会で、理念について繰り返し伝えており、毎月、基本理念を具体化し実践するために、職員全員で季節感やホームの課題を考慮したテーマを定め、それをもとにユニットごとに利用者に合わせて目標を掲げて実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	さいかい高原振興会に所属し、道の駅や地元の町づくりグループが催す祭りやバザー、近隣の小・中学校の運動会に参加している。また、ホームの敬老会を公民館で行い老人会の方々に参加してもらったり、幼稚園児の訪問や中学生の職場体験を受け入れたり、そば打ち会を開き家族を呼んだりもしている。さらには、利用者が新聞紙を使った包装袋を作って商店街に提供するという取り組みを行っており、地域住民に喜ばれている。	○	今後、ボランティア体験の受け入れや他の関係機関との交流等を増やして行きたいという意向であったので、ぜひ実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を十分理解しており、自己評価は職員全員がそれぞれに取り組み、その結果を管理者がまとめてホームの自己評価として、最終的な自己評価内容も全職員に伝えている。前回の外部評価では特に改善課題はなかったが、内容の充実や向上を求めて努力している様子が窺える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、家族、地域住民代表、市社協、地域包括支援センター、市職員、ホーム職員で構成され、19年7月、10月の2回開催している。会議では、外部評価、事業所の運営、活動などの報告を行っており、出席者から様々な意見が出されている。	○	運営推進会議自体始まったばかりの取り組みであり、会議内容や参加者など、今後状況に合わせて検討しながらさらに充実したものとなるよう取組まれることを期待したい。

長崎県 第2グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスになってから、地域密着型連絡協議会の立ち上げや市内福祉施設連絡協議会など、市職員と会う機会も多く、その都度運営に関する相談や情報の収集を行っており、意思の疎通もよくなっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多く、その都度、健康状態や日頃の様子を伝えており、3ヶ月に1回発行しているホーム便りの中でも催しや生活の様子を伝えている。また、利用者ごとに日常の様子を綴った写真入りの手紙も家族に送付している。金銭管理に関しては、原則自己管理になっており、買い物の時などは、商品選択やお金の出納を利用者に合わせて職員が支援している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族からの意見は、面会時にできるかぎり把握するように努め、苦情対応に関しては、重要事項説明書に対応方法やホーム内外の相談窓口を明記し、ホーム内には苦情箱も設けている。また、家族から出された要望などは、全体会議で職員同士共有し、対応を話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、定年退職者以外離職者はないが、組織運営上1年に1名程度の異動があるため、その時は利用者への影響を最優先に考慮して十分な引き継ぎを行うなど、利用者のダメージを最小限にするよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	指導者・中堅者・新任者などの階層別研修、レクリエーション研修等の外部研修には、研修費を事業所が負担し、出張として受講できるようにしている。受講後は、研修報告を行い他の職員も研修内容を共有するようにしている。内部では月に1度、介護や医療に関する勉強会を設けているほか、20年、30年の経験を持つベテラン職員が、日常業務を一緒に行いながら若手職員を育成している。また、運営者、管理者はコーチングやスーパーバイザーの研修を受講し、職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、市社協や市内福祉施設連絡協議会が開催する研修会や行事に参加することで、同業者との交流を持ち、職員同士が任意で作っているネットワークへも参加している。また、地域密着型サービス事業所と市で構成する連絡協議会が発足することになっており、今後さらに効果的な情報交換や勉強会の実現が期待できる。		

長崎県 第2グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と家族でホームの見学に来てもらい、雰囲気慣れてもらえるようにしている。入居後も入ったら出られないという意識にならないように、雰囲気に配慮したり、外出を多くしたり、家族の面会を増やしてもらったりと、利用者一人ひとりに合わせて色々な工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、常に利用者を人生の先輩として敬い、家族のようにいたわり合い、喜怒哀楽を分かち合いながら暮らしている。また、利用者が長年培ってきた、野菜の下ごしらえや魚のさばき方、その他様々な生活の知恵や技を職員が教わり、一緒に取り組むことで、共に支えあう関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや苦しみ、不安、喜び、希望などを、会話や一緒に行動したり寄り添ったりするケアの中から把握するようにしている。意思疎通が困難な場合は、家族の力を借りて職員同士で検討し、意向に添う努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、本人や家族の要望を聞き、職員は日常会話やケアの中から得た情報をミーティングで共有し、利用者が安心して楽しく暮らすことができるようなアイデアを出し合っており、ケアマネジャーはそれらの情報をもとに計画を作成し、さらに意見を求めて、納得のいく介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2～3ヶ月に1回計画の見直しを行っており、職員のミーティングにおいて、モニタリングあるいはアセスメントについての意見交換を行い、その結果を記録に残し整理して、次回の計画に反映するようにしている。急な状態変化や身体機能の低下、入院などが生じた場合は、すぐに家族や医師、関係者と協議、検討し、新たな計画を作成している。		

長崎県 第2グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院介助や帰宅、外出支援など柔軟に対応している。また、医療管理や処置が必要な場合や、利用者が重度化あるいは終末期を迎えた場合についても、利用者、家族の希望や状態に応じて柔軟に支援できるようにしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、原則的にはそれまでのかかりつけ医の診療が受けられるよう支援している。通院に関しては、家族の都合や本人の状態に応じて介助を行っており、時には訪問診療が受けられるように計らうこともある。やむを得ず、かかりつけ医を事業所の協力医療機関に変更する場合には、必ず本人や家族の同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、利用者が重度化した場合の支援や看取りについて、本人や家族と話し合う機会を設けている。その後も、本人や家族、主治医の意見や事業所として対応できる範囲について話し合いながら、方針を決めている。これまで看取りを行ったケースはないが、法人内の施設に看護師が常駐し、医師のサポートも得やすいことから、施設入所を勧める場合もある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、職員は利用者の尊厳を重視した言葉使いに気を配り、親しみを込めながらも節度をわきまえた言葉かけを行っている。排泄の介助では、そっと手引きし利用者を誘導している。職員の姿が見受けられた。また、他の利用者に聞かれないようなことは、プライバシーに配慮し、居室や一对一の時に話すようにしている。書類については、個人の記録類をきちんと整理し、所定の場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間を中心として一日の生活の流れはあるものの、時間を区切って過ごすのではなく、利用者一人ひとりの健康状態や希望などに応じて、食事、入浴などの時間、散歩、ドライブ等柔軟に対応している。		

長崎県 第2グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の楽しみは菜園の野菜を収穫するところから始まり、料理の下ごしらえ、味付け、盛り付け等は利用者の能力に応じて、一緒に行ったり意見を聞いたりしながら行っている。特に郷土料理のお寿司などは利用者にはアドバイスをもらうことが多い。食事は、利用者、職員共に大きなテーブルを囲んで、BGMを流しながらゆっくり楽しく食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の好みに合わせて、いつでも入浴してもらえる体制を整えているが、入居前からの生活習慣などから、午後に入浴を希望する利用者が多い。入浴は原則一人ひとり、入浴剤を使うなどして、ゆっくり入ってもらっているが、仲の良い利用者同士2人一緒に入ることもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	土地柄、利用者は農漁村の生活経験者が多く、菜園の草むしりや野菜の植え付け、収穫、魚の下ごしらえ、郷土料理のアドバイスなどを依頼することで生き生きとした表情が見られる。また、季節行事として、お寺参り、墓参り、遠足、西海橋クルージング、観劇会、ホテルでの食事会、ぶどう狩等定期的に計画し生活に変化を持たせるよう努めており、利用者には喜ばれている。さらに、記憶をたどりながら古い友人を探し当てるなど、利用者一人ひとりへの対応も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の健康状態、希望に合わせて、ホームの周辺を散歩したり、菜園に行ったり、買い物やドライブに出かけたりと柔軟に対応している。花の季節には、さくら、アジサイ、菖蒲、コスモスと、お弁当を持ってピクニックを楽しむなど、日常的な外出の他にも定期的に計画を立てて出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることは拘束に等しいと認識し、6時～21時間までは鍵をかけず常に利用者の見守りを行い、寄り添いながら支援している。利用者が外に出たような様子であれば、近隣を散歩するなどの対応をして、安全面にも配慮している。さらに安全のために玄関にはセンサーも設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	様々な事態を想定して、夜間緊急時出動、通報、避難、消火等の訓練を順次行い、職員の防災意識を喚起している。また、近隣の民家3軒に緊急連絡先として協力を依頼している。その他にも、毎年法人として、消防・警察・自治会を招いて、防災懇話会を開き協力を呼びかけ、緊急時の連絡網の整備、周知を行っており、年1回消防設備の点検を専門業者に依頼し、非常時に備えている。		

長崎県 第2グループホームふるさと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取量、体重は一覧表に記載し、一目で変化がわかるようにしており、栄養、水分の確保に配慮している。食事形態や量は利用者一人ひとりの状態に応じて対応しており、献立の作成は、基本的に法人内の管理栄養士に依頼し、栄養バランスの取れた食事を作っている。また、食材にこだわり、野菜は無農薬有機栽培の地元の生産者と契約し新鮮なものを購入し、塩にもこだわって、食事が健康の源であることを意識して支援している。</p>		
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天井が高く開放感が溢れ、白熱球を使用した温かみのある光と木の優しさが感じられる共用空間が広がっている。居間には、大きな低めのテーブルと安定感のある椅子を配置し、利用者がゆっくり食事をしたり、おしゃべりをしたりすることができ、対面式の台所からは調理の様子が窺え、生活感が感じられる。また、台所の裏側にはサンルームがあり、テーブルと椅子を配置し、日光浴をしながら自然の景色を楽しむことができる。廊下や壁には利用者の作品や写真を飾っており、眺めて歩くだけで楽しく温かい雰囲気が感じられる。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、洗面ユニット、ダンス、ベットや寝具、テレビ、カーテンを備え付けているが、自由にレイアウトすることができ、利用者は家族と相談し、馴染みの家具や小物、仏壇などを持ち込んでいます。また、壁には好みの絵や家族の写真を飾り、個性のある居室を作り出している。</p>		